

タクシー無線を活用した非常通信訓練（平成28年11月8日）

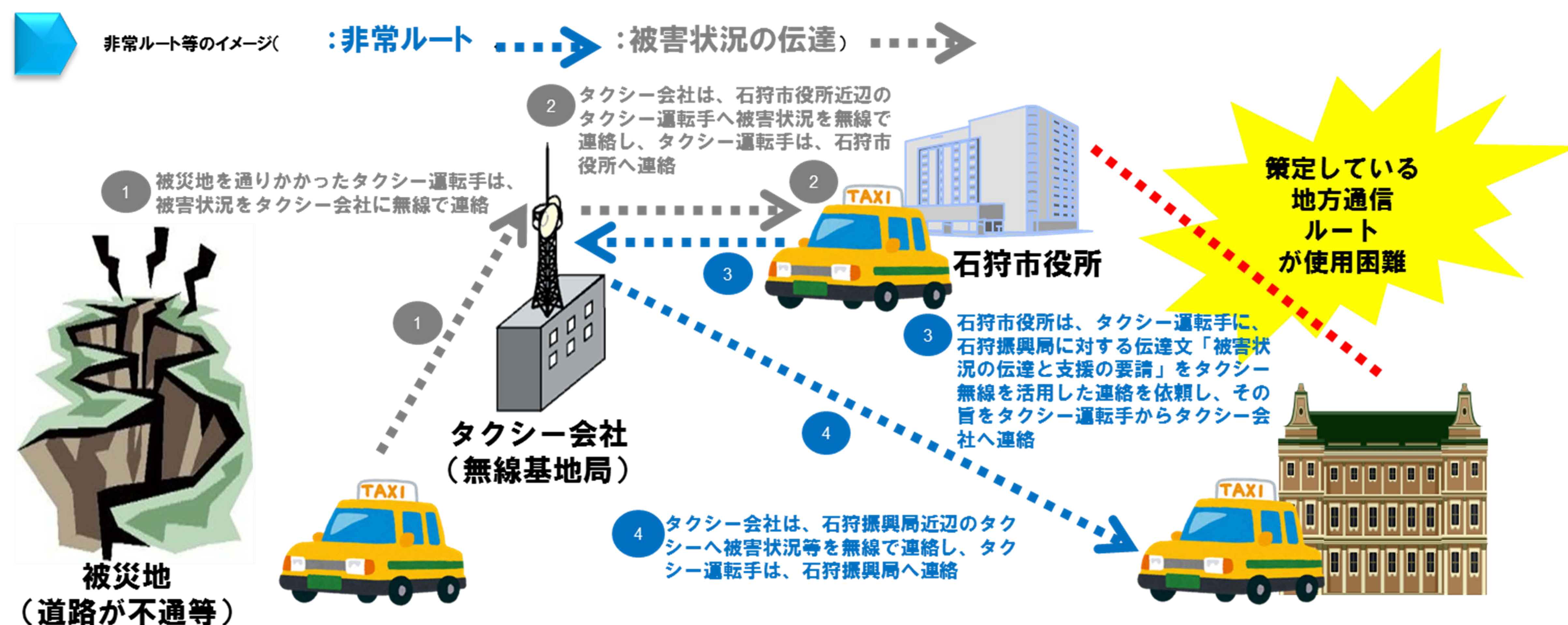
【通信訓練】

- ◆ 石狩地方北部において、震度6強の地震発生。石狩市道の一部で道路路面に亀裂があり、通行不能。
- ◆ 今回の訓練は、石狩市と石狩振興局の間における策定済みの地方通信ルート(※)がすべて使用困難の場合を想定し、新たにタクシー無線を活用した非常通信訓練等を実施し、タクシー無線を活用した非常ルートの実効性を確認するもの。

（参加機関：ダイコク交通株式会社、石狩市、北海道石狩振興局）

（※）通常ルート：防災光回線・電子メール、非常ルート：防災無線（衛星）・衛星携帯電話・消防無線・警察無線・北海道中央バス

【訓練イメージ】



タクシー無線を活用した非常通信訓練の結果について

【結果総評】

- 訓練は、特段の支障（問題）は発生せず終了。非常時における「タクシー無線を活用した非常通信ルート・災害の被害通報」の有効性を確認。今後は、北海道を含め道内の自治体の災害訓練において、タクシー無線を活用した訓練を計画していただくとともに、地域防災計画における非常ルートの整合性を図ることを促進し、また、自治体とタクシー会社との災害時の情報収集・伝達手段及び提供等に関する協定について締結を促進していく予定。

【検証/課題/今後の対応策等】

●通信機器の扱いについて

タクシー会社は、普段使用している無線機器を使用したもので機器操作に慣れていた。一方、タクシー運転手は、普段、マイクのプレストークを押して無線通話をするのは非常に少ないため（A V Mを活用したシステムを利用）機器操作マニュアルの作成・機器の習熟訓練を日頃から行うことが必要。

●通報する際のやりとりについて

あらかじめ訓練シナリオ等に各種の情報を入れるなどして、スムーズに完了した。（各種の情報：タクシー車両の駐車場所、最初に通報する部署、フロア図、各担当者（先）の電話番号（携帯含む））日頃から自治体とタクシー会社との間で、非常時の連絡体制の構築が必要。

●通報にかかる時間について

（想定・・・12分、実際の時間・・・18分）

タクシー運転手が車両を降りてからの移動時間や、エレベーターを待つための時間が想定よりかかった。災害時は、市役所等付近のタクシー車両位置により、通報に時間を要する場合も考えられる。

●通信ルートの有効性について

訓練で利用した通信ルートは非常に有効だった。なお、今回は市町村（石狩市）と都道府県（北海道（石狩振興局））がーのタクシー会社の営業区域内であったことから、通信ルートが確保できたが、異なる場合の通信ルートの確保が今後の課題。（例えば、複数のタクシー会社の連携等）